

皮膚科のトリビア

194

浅井 俊弥(浅井皮膚科クリニック)

<http://www.asai-hihuka.com/trivia.html>

トリビア(trivia)=3を意味するtriと+道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」、そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

本欄は、小誌・浅井編集委員が学会・研究会などで見聞きした「皮膚科のトリビア」をその都度まとめ、連載しています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

●某製薬会社Web Seminarから

令和2年11月5日

疥癬のgray-edged line sign

手掌、足蹠の疥癬トンネルは通常白いのが普通だが、体幹や四肢の疥癬トンネルは辺縁が黒っぽく縁取られているものがあり診断に役立つ。黒っぽく見える理由はcomedoと同様、皮脂と関連がありそうだが、搔破による出血や小水疱のあとの滲出液が乾いたものかもしれない。

一言コメント

「掌蹠以外の疥癬トンネルをみつけるのは容易ではない。色の変化には注目していなかったが、覚えておこう。」

●Herpes Forumから

令和2年11月15日

アメナメビルは透析中でも常用量投与で問題なし

血液透析患者に本剤400 mgを単回投与し、投与24時間後から4時間の維持透析を実施したとき、アメナメビルのCmaxおよびAUC24hの平均値はそれぞれ1.59 $\mu\text{g/mL}$ および23.89 $\mu\cdot\text{h/mL}$ であった。またtmaxは6.2h、t1/2の中央値は透析前、透析中、透析後でそれぞれ14.7h、15.2h、12.4hであった。ダイアライザによる除去率は30.7%であったが、透析中の血漿中アメナメビルの消失半減期の15.2時間は、透析前後と比較して短縮せず、血液透析の影響は限定的であった。

一言コメント

「血中半減期は健康成人の1.8倍、AUCは健康成人の2.3倍であるが、臨床問題となる大きな変化ではないとのこと。透析患者の帯状疱疹の治療にあたっては、健康成人同様に1回400 mgの内服でよく、用量の調整は必要ないという貴重なデータであった。」

●第17回日本褥瘡学会関東甲信越地方会から

令和2年11月15日

在宅における創傷被覆材の保険償還

いずれかの在宅療養指導管理料(在宅寝たきり患者処置指導管理料など)を算定している在宅患者で、皮下組織より深部に至る褥瘡(DESIGN分類D3~D5)を有する患者の褥瘡に対して使用した場合に保険請求が可能。2012年の改定から医療機関からの支給が可能となり、2014年の改定で院外処方によって調剤薬局からの支給も可能となった。期間は原則3週間まで。

一言コメント

「処置で用いたときはすっきりするのだが、処方の際にはこれでいいのかといつも迷う。ハイドロジェントルエイドという救急絆創膏の購入を勧めるのもよさそうである。」

●第84回日本皮膚科学会東京支部学術大会から 令和2年11月21日

乾癬性関節炎の4つのフェノタイプ

乾癬の病態形成に重要なサイトカインであるTNF, IL-17, IL-12/IL-23 (p40) に対する生物学的製剤が治療薬として承認されているが、それらの使い分けは基準がない。治療抵抗性の乾癬性関節炎患者の末梢血リンパ球フェノタイプを解析したところ、ケモカイン受容体の発現によりTh1優位型, Th17優位型, 両者亢進型, 正常型の4群に分類された。Th1優位型には抗p40抗体, Th17優位型には抗IL-17抗体で治療を行ったところ、それぞれの優位性ととも臨床症候が著明に改善した。乾癬性関節炎では、末梢血のリンパ球解析により病態に合わせた最適な生物学的製剤治療の選択が可能である。

一言コメント

「なるほど。行き当たりばったりではもったいないということ。検査にかかる費用や時間が問題になるが、オーダーでできるようになれば試みるべきであろう。」

●第84回日本皮膚科学会東京支部学術大会から 令和2年11月21日

腹壁脂肪組織生検による心アミロイドーシスの診断

心アミロイドーシスはトランスサイレチン(TTR)という4量体のタンパク質が加齢(野生型)や遺伝変異(変異型)により単量体に解離して変性がおこることによりアミロイド線維が形成され、全身の組織内へ沈着することが原因で障害が生じる疾患。心筋に沈着すると難治性の不整脈や心不全等により最終的に死に至る可能性があるため早期診断が必要。確定診断には生検が必要だが、腹壁脂肪の吸引がもっとも侵襲性が低いため広く施行されている。感度は野生型で14~15%, 変異型で45~67%, ALアミロイドーシスで79~84%と報告されている。

一言コメント

「トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチー (TTR-FAP) の末梢神経障害の進行抑制の治療薬として2013年から発売されているビンダケル[®]が心アミロイドーシスの治療薬として適

応拡大された。血漿中に4量体として存在するTTRに結合して単量体への解離を抑制し、安定化することで、アミロイド線維の形成や組織への沈着を抑制する。」

●第84回日本皮膚科学会東京支部学術大会から 令和2年11月21日

アゾセミドによる下腿の硬結

心不全でアゾセミドを内服中の70歳代の女性。両下腿に発赤と腫脹が出現し、前腕や手背にも結節性紅斑が出現した。両下腿は広範囲にわたる板状の皮下硬結へと進行。生検組織では真皮深層から皮下組織に及び肉芽腫性の皮下脂肪織炎。アゾセミドを中止したところ1カ月で硬結は消失した。

一言コメント

「なぜおこったのかは不明だが、ループ利尿薬の薬理作用と関連がありそうとのこと。小太り、大根足で静脈うっ滞のある女性で、フロセミド内服中に同様の症状をきたした症例をみたことがある。」

●第84回日本皮膚科学会東京支部学術大会から 令和2年11月21日

喫煙でIL-36 γ が上昇する

掌蹠膿疱症が喫煙歴のある女性に好発する理由はこれまで不明であった。今回、*in vitro*において扁桃上皮細胞をIL-17Aで刺激したところ、タバコ抽出液存在下でIL-36 γ の相乗的な発現を認めた。表皮ケラチノサイトでも同様の結果だった。患者血清中のIL-36 γ の上昇はなかったが、摘出した扁桃上皮にIL-36 γ が高発現していることが免疫組織学的に確認された。

一言コメント

「扁桃上皮がタバコの刺激でIL-36 γ を発現し、皮膚の膿疱形成に関わっている可能性がある。掌蹠膿疱症が扁桃摘出で改善するのは、病巣感染との関連だけではないらしい。」